

Vol. 8  
2017年  
春・夏号

# 上町台地 今昔タイムズ

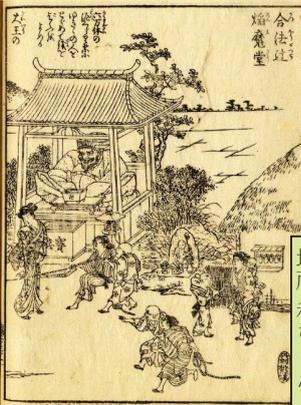
企画・編集：U-CoRoプロジェクト・ワーキング 発行：大阪ガス エネルギー・文化研究所 (CEL)  
問合せ先：tel.06-6205-3518 (担当：CEL 弘本) ※U-CoRo=ゆーこーろ (上町台地コミュニケーション・ルーム)  
http://www.og-cel.jp/project/ucoro/index.html

## 「上町台地 今昔タイムズ」とは

わたしたちが暮らす「上町台地」。古代から今日まで絶えることなく、人々の営みが刻まれています。天災や政変や戦災も、著しい都市化も経験しました。時をさかのぼってみると、まちと暮らしの骨格が浮かび上がってきます。自然の恵みとリスクのとりえ方、人とまちの交わり方、次世代への伝え方…。過去と現在を行き来しながら、未来を考えるきっかけに、U-CoRoプロジェクト第2ステップでは、壁新聞「上町台地 今昔タイムズ」を制作いたします。



閻魔大王と地蔵の前で子らが縄で道を塞ぐ(「摂津名所図会」1790年)。遠景の一心寺の左には相坂(逢坂)清水があり、その傍らには、のちに四天王寺に移された融通地蔵があった。(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



大王のにがみに地蔵和むらん

## 境を守る 辻の見張り役

### まちや村の出入り口で災いを防ぐ

まちはずれの辻に安置されているのは、境界から疫病や盗人などさまざまな災いが侵入してくるのを防ぐためのお地蔵さんです。あらゆる人を救わねばならないお地蔵さんは、千変万化、閻魔大王の姿に成り変わっていることもあります。「摂津名所図会」(1790年)には、合邦辻の閻魔堂の前で、子どもたちが縄で通せんぼをする情景が描かれています。閻魔大王とお地蔵さんと子どもたちが一体となって、遊びのなかにもまちの境界を意識し災いを防ぐ含意がありました。

## 往来を結び 無事を祈る

### 街道沿いで旅の安全を支える

旅には危険がつきものだった時代。街道沿いは多くの地蔵堂が設けられ、無縁の人々が休息をとることのできる場所にもなっていました。迷うことなく目的地へ着けるようには、お地蔵さんは頼りとなる道しるべの役もかねていました。往来の安全のために、地域の内外の人々の危険を減じ、有形無形の恩恵を媒介する存在だったのです。

### 矢田地蔵尊

現在の玉造駅から東に入った暗越奈良街沿いの路地にある地蔵堂。奈良の矢田寺に縁があり、石のお地蔵さまには、矢田寺への道しるべが彫られている。

### 西俊徳地蔵尊

昔の平野川に架けられた橋の傍らにあった地蔵堂。前を通るのは俊徳街道で、ここは河内高安の長者の子・俊徳丸が四天王寺へ参る際に休憩した場所とも伝えられる。

## 安住の場は移されても

### 世につれ人につれ転変する運命

まちなかのお地蔵さんは、少なからず転変の履歴を秘めています。戦災や都市化など、土地利用の変遷の激しい地域にあって、人々の暮らしの傍らあるお地蔵さんの安住の場は、まちの開発や世情とともに、移り変わっていきます。流され、焼け出され、埋められ、盗まれ、掘り出され、あるときは合祀され、あるときは拾われ、あるときは譲られ、そして祀られる、お地蔵さんの足跡はまちと暮らしの歩みそのものです。

### 逢坂清水の融通地蔵尊

この地蔵は鎌倉後期「正和六年」(1317年)の銘をもつ。もとは一心寺門前の西、逢坂の途中にあったものだが、明治時代末の電車道拡張に際し、逢坂清水の井戸畔とともに四天王寺・地蔵山に移された。



## 有為転変、世情によりそい願いを映し

## よみがえる お地蔵さんと まちの暮らしの縁起

古代、聖徳太子が六万体的地蔵を彫って安置したと伝わる上町台地。中世には、極楽往生を願う辻で、ときには閻魔大王と化したお地蔵さんが道行く人々を見守りました。近世ともなると、地蔵巡りで賑わうお堂から、長屋が立ち並ぶ街角へ、さらには路地の奥深くへ。お地蔵さんは現世の願いを一身に受けて、まちじゅうに迎え入れられていきました。時代は下って、文明開化に激しい戦災も、幾多の荒波を被りながら、なおよみがえり続ける姿こそ、まちに生きる人々の心を映す鏡、その地の暮らしの縁起さながらです。



地蔵祭提灯のイラストは「上方」132号(1933年)より

## 六万体の伝説が息づく

### 聖徳太子の思いが受け継がれる台地

四天王寺の近くに六万體町という地名があります。聖徳太子が衆生救済のために、六万体の石の地蔵を彫って、この地に埋められたとの伝説が脈々と語り継がれています。以来千数百年、さまざまに形を変えながら、上町台地にはお地蔵さんと人々がよそって暮らすまちの文化が創り出されてきました。



六万體地蔵尊を安置する真光院。付近には今も六万體地蔵が埋まっていると伝えられる。

愛染堂の延命地蔵尊も六万體地蔵の由来を持つ。

## 地蔵祭の主役は子ども

### まちなかで子らの安全を祈って

江戸時代、町内各所に祀られるようになったお地蔵さんは、火除け、子安、延命、疫病封じ、盗難除け…。日々の暮らしの切実な願いを受けとめていました。やがてお盆に近い縁日は地蔵祭と呼ばれ、まちの子どもたちのために行われるように。提灯や絵行燈を飾り、子らは数珠練りや盆踊りに加わり、お菓子や玩具などのお接待を楽しみます。夜も更ければ大人の宴も。遠い昔から今に続く風習です。

大坂近世の地誌「難波鑑」(1690年)の地蔵祭の図。地蔵祭の日、門前に祀られたお地蔵さんの前に子どもが集まった様子を描かれている。(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



「難波鑑」の盆踊りの図。(大阪市立図書館デジタルアーカイブより)



わらべども供物 燈明をかかけてまつる也



## 江戸時代の遊山・地蔵巡り

### 六地蔵巡り・四十八地蔵巡り

大坂では江戸時代に六地蔵巡りや四十八地蔵巡りが人気を集めます。大坂三郷の周縁部、とりわけ眺めがよく多数の社寺が立地する上町台地帯は絶好の遊山地でもあり、お地蔵さんの縁日には、現世利益の願かけと行楽の一石二鳥、早朝から巡礼を楽しむ人々で大いに賑わったそうです。

### 四十八地蔵巡り

- (はじまりは1708(宝永5年)から)
- |    |       |     |    |       |      |
|----|-------|-----|----|-------|------|
| 1  | 福島    | 光智院 | 25 | 八丁目筋  | 大福寺  |
| 2  | 天津崎   | 久松寺 | 26 | 同所    | 長楽寺  |
| 3  | 天津北野  | 常安寺 | 27 | 同所    | 実相寺  |
| 4  | 天津西寺町 | 龍淵寺 | 28 | 同所    | 源光寺  |
| 5  | 天津東寺町 | 九品寺 | 29 | 同所    | 光明寺  |
| 6  | 同所    | 雲霧寺 | 30 | 野中観音  | 難波寺  |
| 7  | 同所    | 龍海寺 | 31 | 谷町富寺町 | 専修院  |
| 8  | 同所    | 大信寺 | 32 | 生玉馬場  | 持明院  |
| 9  | 小橋町   | 本覚寺 | 33 | 生玉八幡宮 | 西方寺  |
| 10 | 同所    | 成道寺 | 34 | 同所    | 九心寺  |
| 11 | 同所    | 宝国寺 | 35 | 天王寺尼寺 | 月江寺  |
| 12 | 同所    | 両岩寺 | 36 | 天王寺繁  | 真光院  |
| 13 | 同所    | 大円寺 | 37 | 天王寺   | 念仏堂  |
| 14 | 小橋墓   | 伝光寺 | 38 | 天王寺   | 地蔵院  |
| 15 | 同所    | 洞泉寺 | 39 | 天王寺   | 一心寺  |
| 16 | 同所    | 仏心寺 | 40 | 同所    | 天徳院  |
| 17 | 同所    | 法蔵院 | 41 | 天王寺清水 | 清光院  |
| 18 | 同所    | 宗心寺 | 42 | 下寺町   | 良慶院  |
| 19 | 同所    | 十万寺 | 43 | 同所    | 善念寺  |
| 20 | 同所    | 楞嚴寺 | 44 | 同所    | 普龍寺  |
| 21 | 同所    | 慶恩院 | 45 | 同所    | 超心寺  |
| 22 | 同所    | 正覺院 | 46 | 同所    | 万福寺  |
| 23 | 同所    | 同所  | 47 | 同所    | 法善寺  |
| 24 | 同所    | 同所  | 48 | 同所    | 阿弥陀池 |

背景地図は攝津大坂圖鑑網目大成(1715年)(国立国会図書館デジタルコレクションより)

# 路地の奥で息を吹き返すお地蔵さん

## 織田作之助が描いた風景、受難の時代を越えて

文明開化の到来は、お地蔵さん受難の時代の幕開けともなりました。明治5（1872）年の大阪府令で、地蔵祭が禁止され、路傍のお地蔵さんの撤去も命じられました。しかし、路地裏のお地蔵さんは生き残り、やがて地蔵祭（地蔵盆）も復活していったのです。受難の時代をしたたかに生きた、路地の地蔵や盆踊りの情景を、織田作之助は小説の背景にある重要な風土として描いています。「夫婦善哉」では、路地の中の盆踊りから二味線を弾く蝶子の姿と内面が、聖俗的な原風景に重なります。



地蔵祭行燈のイラストは『上方132号（1933年）より

「やはり暑い日だった。／十日  
貝ちよつど地蔵盆で、路地に  
も盆踊りがあり、……（『夫婦善哉』）」



曲り角の間から生国  
魂神社の北門が見え  
たり、入口に地蔵を祠  
り、……（『アドバルーン』）」

現在も、からほり界隈に残る地蔵がある路地。



### からほり界隈

## 路地のつながりを感じながら地蔵盆のナイトツアー

からほり界隈では、毎年、小規模ながら十数か所で地蔵盆が行われています。この地蔵盆を8月23日の夜に約か所お参りするツアーを地元有志が2013年から実施。見学だけでなく、地元の方の数珠練りやご詠歌、盆踊りなどにも積極的に参加しています。



ツアー参加者。日本文化に関心がある外国人の人にとって、地蔵盆の夜は幻想的で印象深い光景という。



界隈のあちこちにテントが張られ、提灯が上げられる。夜にはご詠歌を唱えるところも多い。

日時 8月23日夕方から  
場所 からほり界隈（中央区谷町6、上本町西1・2ほか）  
主な内容 この界隈で約7カ所の地蔵盆を数人のグループで巡る。英語解説付きの外国人対象のツアーも実施。



訪れた先では、地域の人たちと一緒に、数珠練りなどに参加することも。

### 路地に招かれる貴重な体験！

「お参りしてくださいね」と声がかかる。いつもは閉ざされている路地がオープンになり、外部の人の中に入って行ける。からほり周辺の地蔵盆の夜は、あちこちに提灯のあかりがともる幻想的な趣き。そのなかをお地蔵さんを訪ね歩くのはとても貴重な体験。

渡辺尚見さん（からほり倶楽部）

### 外国の人も興味を示す地蔵盆

私自身、子どもの頃は毎年、友だちと地蔵盆を回った。お菓子をもらうだけでなく、多くのことを地域の人から教わったと思う。ツアーは外国人の知人が日本文化としての地蔵盆をより深く知りたくて言ったのが発端。外国人の目にも独特の祭に見えるようだ。

六波羅涼さん（からほり倶楽部）

## 東上町 方除地蔵尊 地蔵祭の復活から子らのふるさとづくりを

2006年夏から地域の町会を中心に、廃れていた地蔵祭を復活。新住民の増加が著しいこの地域で、子どもも大人も楽しめるお祭を企画・運営しています。焼きそば、焼き肉、射的、輪投げ、綿菓子など、多彩な屋台が並ぶ公園に、この日は多くの家族連れが訪れます。

### 未来に向け、祭で輪を広げたい

地域の子もたちに、夏の日思い出を残してあげたい。やがて、ここがみんなの素晴らしいふるさとになるように、という思いが地蔵祭復活の第一の理由。こうした地域行事を通じて、新しい住民の方とのつながりづくりを進め、人の輪を広げていきたい。

服部多嘉男さん（東草振町会会長）



地域の人たちが公園に集い、ともに楽しいひと時を過ごす。

### 地域の未来を見据えながら！

今、この地域ではマンションが増え、子どもの数は増加している。その一方で戸建で住民の高齢化はますます進んでいるようだ。先の見通しがなかなかつきにくいのが現状だが、未来を見据えながら、こうした地域行事をしっかりと受け継いでいきたい。

菅野泰紀さん（東草振町会役員）



子どもたちも自然な様子で地蔵尊に手を合わせる。



日々の安寧を祈念し、方除地蔵尊には高齢の方も集る。

# 地蔵祭の今

※参考文献：田野登「大阪のお地蔵さん」（漢文社、1994年）／船本茂兵衛「地蔵祭と地蔵尊の由来」（『上方』32、34、36号、1933年）



有為転変、世情によりそい願いを映し  
よみがえるお地蔵さんとまちの暮らしの縁起

## 新しい縁を結ぶ 地蔵祭の再起動

現在を生きる人々の願い、コミュニティの再生へ

忘れられても再び思い起こされ、排斥されてもまたよみがえり、お地蔵さんは人々の暮らしの傍らにあり続け、時代の心を映す鏡のような存在です。今、路地の奥では高齢化が進み、新しいマンションに移り住んできた人々と、古くからこの地に暮らす人々の縁を結ぶのも容易なことではありません。お地蔵さん苦難の時代ともいえますが、一方で、お地蔵さんが新たな縁づくりを担っている例が、上町台地のあちこちに見られます。錫杖を手に東奔西走の謂れは、現在を生きる人々の願いそのものです。

### 将軍地蔵尊



この将軍地蔵尊は、聖徳太子に師と仰がれた日羅公の仏化像。災害除けや子どもの守護を願い1843（天保14）年に大坂城の玉造口に建立されたという。明治になって小宮町に移転したが空襲で被災。1953（昭和28）年に五条小学校西門前に移された。

### 五条小学校

日時 8月23・24日夕方から  
場所 盆踊りは五条小学校運動場、地蔵は同校西門前（天王寺区上本町8）  
主な内容 小学校の校庭で盆踊り大会を二晩にわたって開催。子どもたちへのお菓子の配布やお守りの授与なども。

## 地域の人の心を集めて 将軍地蔵の子ども盆踊り

五条小学校の西門向かいに安置されている将軍地蔵尊。毎年の地蔵盆では、五条小学校の運動場で「子ども盆踊り大会」が開催されます。付近の10を越える町会の協力による運営で、かき氷やたこ焼きなどの屋台も出て、両日とも何百人もの人出で賑わいます。



周りを高層のマンションが囲む校庭。その中央に大きな櫓が組まれる。

子ども太鼓倶楽部の活動も、この盆踊り大会から生まれたもの。

### 縁ある人たちの思いとともに

平成15（2003）年にお地蔵さんの覆い屋を新建したが、これは世話人たちの熱意があったからできたこと。お地蔵さんを囲む活動が、いろいろな地域の団体をつないでいる。盆踊りも大賑わいで、地蔵盆の関連では市内でも有数規模になってきている。

神田晃治さん（将軍地蔵尊保存会総代）

## 一心寺 「まちの広場」に人が集う 地蔵盆フェスティバル

骨仏で知られる一心寺の境内で2007年から始められた地蔵盆。フェスティバルの名のとおり、誰でもが参加できるお祭です。当日は、入口で屋台で使えるお楽しみ券とお守りもらい境内に。多彩な催しで子どもたちに楽しい夏の日を提供しています。



夜には境内で盆踊りの輪が広がる。



子どもたちの守護と無病息災を祈るお守りを授与。



日時 8月24日夕方から（23日 前夜祭）  
場所 一心寺（天王寺区逢坂2）  
主な内容 23日は前夜祭として人形芝居公演、24日はお守りの授与、境内での縁日や大珠の数珠練り、盆踊りなど。

大きな珠の数珠練りも、子どもたちに意外に人気。

### 誰もに開かれた新しい祭を！

お寺には「まちの広場」としての意味がある。そこで、地蔵盆を誰もが参加できる「フェスティバル」にしようと考えた。一心寺にやってきた子には、お清めをして守り札を渡す。境内には舞台と楽しい縁日。そこでは盆踊りや数珠練り。どの子も心打ちうれしそうに見える。

高口恭行さん（一心寺長老）

### 一心寺的な多世代交流の場

屋台は手作り感満載で、ボランティアのお兄さん、お姉さんたちがやっている。知らない同士だけれど、大人が親しく接してくれるのを子どもたちは本当に楽しんでいる。これも一心寺的な関わりのつくり方。前夜祭の人形芝居も好評で、今後も続けていきたい。

高口真吾さん（一心寺シアター倶楽）

## 延命山 日限地蔵院

## 地域の人たちと連携し より賑わいのあるお祭に

8月23、24日に行われる日限地蔵院の大祭・地蔵盆には、付近の親子連れが大勢お参ります。地域の方が、かき氷や飲み物などを準備し、訪れる人に無料で提供。通りには屋台も出て、この一画には、夏の終わりの夜店を思わせる風情が漂います。



祭の日、日限地蔵院の前には昔の縁日の面影を残す屋台の出店も。

大祭・地蔵盆の夜にお参りする子どもたち。



日限地蔵院の本尊は、聖徳太子の頃の恵心作とされ、のちに平清盛、重盛の守り仏になったと伝えられる。その後長く京都に奉安されたが、万延年間（1860-1861）に大坂・島町に勧請された（さらにのち、戦災に遭い現在地に移転）。日限（ひぎり）の名は、豪商・鴻池家の子息の難病が日限っての熱願によって快癒したことによるとい。

日時 8月23・24日夕方から  
場所 日限地蔵院（中央区釣鐘町2）  
主な内容 両日は本尊の開帳と子どもへのお菓子配布。通りに露天屋台が出るほか、かき氷、綿菓子、ジュース、アイスコーヒのふるまひも。



普段のお参りが多い、戸外の永泰地蔵尊。

### 地域に支えられて続く地蔵盆

この地蔵院は平素から地域に支えられる存在。毎年の地蔵盆の大祭でも、地域の方によるふるまひもあり、オフィス街の人たちもやって来て、都会の真ん中で不思議な雰囲気を楽しんでいる。今後は、できれば盆踊りなども復活させて、より活気に溢れた祭にしたい。

西浦弘園さん（延命山日限地蔵院）